

C-8 民俗衣装に関する研究(オ7報)彦山絵巻の神事兩輪組如法經組の服装
近畿女子短大○久保田初枝 福岡教育大 後藤信子

目的 オ7報に基づいて神事兩輪組と如法經組の服装について、考察した。

方法 オ7報と同じく彦山絵巻のなびから神事兩輪組(惣方)如法經組(衆徒方)の服装について、彦山文書の「吉書集義」、「宣度大嘗之次オ」等の記録より調査、考察を行った。

結果

1 彦山文書の「吉書集義」によれば

神事兩輪組には次の階位がある。角頭、当出仕、三臈、請取、当役、二臈、一臈、仕上り。

如法經組には角頭、当出仕、未成就、請取り、当役の階位がある。

2 神事兩輪組(惣方)の衣帯は、摺衣上下、頭巾、袈裟が主体である。祭事の衣帯は階位により異なる。

3 如法經組(衆徒方)の衣帯は、素絹、結袈裟。これについては、宣度長床組、神事兩輪組と比較して、記録が非常に少く詳細を明らかにすることが困難であったが、天台宗の僧衣に準じたものと考えられた。

以上のことから、儀式、行事の服装については、何れの階位においても厳しく定められていた。なお、彦山文書の「宣度大嘗之次オ」、「吉書集義」、「正応坊年中行事」等に詳細に記録され、それが伝承されていった。